

アマダイ通信NO. 52

(Tile fish network letter)

06年元旦

知人・友人各位

明けまして、おめでとうございます。景気も上昇傾向で何となく明るい感じが出てきました。景気は循環するもので、いつかは良くなるとわかってはいても、不安なもの。もう少し上向いて欲しいものですが、上がれば、下がるのも常。中国山西省大同市の、黄土高原緑化の労働者も、ついこの間までの日給10元では集まらず、25円で内蒙古から連れてきているとのこと。波乱要因の中国経済は今年も高度成長を続けられるのでしょうか？

◎胃癌検診はできません！

大腸癌発見もこれがきっかけだ、小平市報の消化器癌検診の知らせを見て、胃癌検診を申し込む。サラリーマンだと定期的に健康診断を受けさせられるが、自営だとその機会がない。それでも丁度3年前、同じ検診の市報を見て応募、便潜血検査陽性の反応が出た。内視鏡検査を勧められて、上行結腸に径5センチの大腸癌が見つかり、お茶の水の三楽病院で、大腸を盲腸諸共30センチ切除した。リンパ節も9箇所取る。3ヶ所のリンパ節に癌が転移し、きわどい状況だった。リンパ節に転移すれば、肝臓や肺、更には脳に転移している可能性が高い。幸い、他の臓器への転移は発見されないまま、転移の目安の術後2年間は無事経過し、データの的には転移なしということになった。

十月の診察の時に主治医の阿川先生に、保健所で胃癌の検診受けるんですが、腫瘍マーカーも低いままだし、やった方がいいですか？と尋ねると、受けた方がいいよ、腫瘍マーカーじゃ胃癌はわからないよ、と先生。マーカーは臓器別らしい。前の晩の飲食は九時までにして、朝食抜きで保健所へ行く。注意書きを読み問診表を記入。大腸癌の履歴も書き込む。お医者さんでいいと言われましたか？と受付。更に問診で、内視鏡だけでなく、バリウムも飲んでいいと先生に言われましたか？と突っ込まれる。いや、そこまでは・・・。何センチ切ったんですか？三十センチ。手術するとその腸が薄くなるんですよ。腸が破れて亡くなった人もいます。それは大変だ、だけど・・・。それでは自己責任でしてもらうこととなります！きつい駄目押し。三楽病院の診察券を取り出し阿川先生に電話。じゃ、今度胃の内視鏡しましょう。血液検査だけ受けて下さい。その旨伝えると、今回は血液検査してないんですがと、問診担当者。かくて何もしないで帰る。

十二月の診察時に血液検査で何もなければ、術後3年経過の三月で朝晩飲んでいる抗がん剤も止めることにする。以降は半年に一回診察を受け血液検査、1年に一回人間ドックに入りCTなどの精密検査と成人病検査をし、心電図だけ市の成人病検診でもらうことにする。毎晩飲んだくれ、太って色艶もいいので、悪友からはお前の癌はガンモドキだからかわれるのだが、“治癒する見込みは殆どなし”のステージⅢbからの“奇跡的”生還？であれば、全く医者や薬と切れてしまうのも心細い。免疫療法なんかどうなのでしょう？と。結果が検証されていないからね、博打みたいなものですよ、と阿川先生。エッセイストの絵門ゆう子さんなんか、免疫療法で助かっているようですが？乳がんだからですよ。お酒飲んで、ストレス溜めないのが一番ですよ。には心強い言葉だ。

◎ノンアルコールビールでも、ゴルフ長足の進歩？

主治医の阿川先生の指示を守り？土日は原則休肝日にしているし、三鷹寮で同期の坂東自朗、JR東日本監査役が警察庁交通局長の時に、飲酒運転の罰則が格段に強化され、ゴルフの後の一杯も駄目になった。昼もノンアルコールビールで我慢する。健康と安全には代えられない。汗を流した後の一杯を味わえないのは残念だが、能代高校同期の小野寺住友不動産専務やテクノバンオーナーの高松社長、丸井の金子店長などは80前後で回る。いつまでも130ではつきあってもらえない。月に1、2回はコースに出、早朝の打ち放しへも行くようにする。乗り換え案内のジョルダンの佐藤社長や、ソフトのアスキング女社長の青野さんがつきあってくれる。

癌保険で懐に入った1千万円を元手に買った赤いコペンをオープンにして、日焼けも構わず高速を飛ばし、埼玉の小川カントリーやGMG八王子へ。いつまで生きるかわからないから楽しい車をと、年甲斐もなく？思い切って買った赤いツーシーターだが、カミサンは恥ずかしいからと脇に乗ろうとしない。息子も黄色ナンバー（軽自動車）じゃんと馬鹿にする。いつも一人で、助手席に乗るのはゴルフバッグやディスカウントストアで買った酒や、植木鉢というのは残念だが、軽なのに140キロまで出る。軽いので出足はすこぶるいい。ワンタッチで屋根がトランクに収納される。ガソリンはレギュラーで燃費もいい。車両本体で150万円と安い。背が低く小さいので洗車もあつという間。信号待ちで、何だポルシェじゃないじゃないか！と嫌味を言うひねくれ者もいるが、楽しい車だ。ダイハツが技能継承のためにと手作りするので、納車2ヶ月待ちだった。

無蓋のコペンを風切って飛ばす楽しさもあってか、ゴルフも面白くなった。10月に青野社長と組んだ小川カントリーでは午前55でとしてはまずまずだったのだが、午後は緊張感がきれたか64。それでも山岳コースで120切るようになった。調子に乗り、11月は二回コースに。月末の土曜日、佐藤さん、青野さんと一緒だったGMG八王子の厳しい山岳コースで前半55、後半56の111。その前、高松君や佐藤さんと一緒だった上野原のオリンピックカントリーの比較的フラットなコースで62、57だったので少し上手くなった感じだ。ティーショットも2百ヤードほど、大分正確に飛び、パットも大体2回で入る。グリーンに乗せるのに手間取るが、ピッチングを使うアプローチにも慣れる。管理担当から開発担当となり、住友不動産の代表権を持って更に忙しくなった小野寺君に、年明けに一緒にプレーしてもらおうことになっているので、レベルの低い話で恐縮だが、佐藤さん、青野さんと回る17日の05年最後のゴルフでは百台に突入しておきたい。スコア誤魔化してんんじゃないの？と口の悪い高橋カーテンウォールの小松常務とも、今年は是非一緒にラウンドしたいものだ。

◎璃江下りは春秋の昔から

上海で暮らす娘に会おうと、11月末に上海経由の桂林ツアーに参加する。娘も桂林でツアーに合流する筈が、その前に日本に帰って来て、成田から一緒に出発し、成田に一緒に帰ってくる。娘と一緒に楽しいが、いささか複雑。

広州を半日観光して、夕食後桂林に飛び、翌日天下の景勝璃江を船で下る。山青くして水清く、トンガリ帽子の山々を見遣り、船上で杯を重ねる。船尾で大鍋を使う、2、3階建ての観光船が行き交う。パンツ一枚で水浴びする子あれば、魚獲る鵜あり、群れ泳ぐ家鴨あれば、草食む水牛も。女は水辺で洗い、男は筏で漁し、我は川海老をビールの友とする。



竹を束ねた筏に椅子並べ、川に棹差し客運ぶ者、数十頭の水牛の横で佇む老人あり。春秋の昔もかくありしか？酔いは進み、船は往き、時は流れ、向き合う娘は何思う。26才の誕生日だ。上海に残るか東京か？筏の上の客の如く。

人は変わるもので、人間性は多面的だから、一人の異性を愛し通すのは美しいけれど、そのためには、お互いの変化に向きあう努力が必要だ。時に別れも悪いことではない。まして、歴史も制度も文化も違えば尚更だ。近世から近代にかけ、産業社会の形成と共に確立した一夫一婦制はそれを前提にしていなかったけれど。源氏物語のように中世以前の母系制社会の通い婚では一妻多夫、一夫多妻も珍しくはない。規格品大量生産の産業社会から情報社会に変わる過程で、婚姻制度の矛盾も露呈し、少子化や同姓婚が現実化している。現実と形式がずれているのだ。勿論中世では沢山の妻の所に通う貴族がいる一方で、荘園に縛られ家庭を作れない農奴が多くいた。生産力の発達した現代は、男女それぞれの自立が進み、結婚しなくても経済的には不都合は少なくなった。経済的な要因がなくなれば、男と女は、人間として、男として、女としての存在価値自体が問われるようになる。

◎腐敗と腿癢と欲望渦巻く魔都上海

豫園の緑波楼の小ロンポーに舌鼓打ち、ツアーから離脱。ヒルトンの裏、安静楼の中華料理店で娘の知合いと十五人で卓を囲む。フカヒレスープに、アワビや上海蟹も出て、日本の美味しい中華料理店くらい、まあまあ味の味だ。パックツアーの中華料理とは大違い。上海蟹も、子供の頃獲って遊んだモクズ蟹じゃないか。小さくて食べにくく、日本じゃすり潰して出汁にしかしない。昨年食べた時は美味しいと思わなかったが、手足は諦め、蟹みそだけ食べると美味しい。今回は近ツリだったが、3泊4日で12万円も？払っている。もっと美味しいところへ案内して欲しい。談論風発、紹興酒を何本もお代わりして、一人200元（3千円）。オーナーの中国人ママとスポンサーの日本人。建築業を営み、日本で水商売していたママと子をなす。他は若き日本人駐在員男女。「持ち帰り自由」の女付き個室カラオケやキャバクラで接待して、夜中までよく働くのよ。女買うのが楽しみで日本から出張して来るからね。V字回復著しく、中国に沢山工場を持つ真似下電器なんかも、取引先にキャバクラを作らしたりしているよ。わかったようなことを言う娘。六月に豫園の他の店で昼食を取った時も、日本の親父と中国の若い娘の不釣り合いな一団が親しげに卓を囲み、遅い朝食？をとっていた。恋は買うものではないと思うのだが。

上海一の繁華街南京路を歩くと、ROLEX 三個千円などと、男が次々寄って来る。何故か日本人だとわかるらしい。日本から撤退したカルフルも上海では成功している。フランスと中国の国民性に共通するところが多いのか？生鮮品売り場に大きな蛙。無蓋の箱の中でじっとしている。写真を撮ると制止される。カルフルの近くには日本人が沢山住む。日本語の会話を耳にして少し歩き、交差点を折れるとビデオ屋。娘がDVDを沢山買う。一枚20元均一。日本の物には中国語の字幕がつく。新作と並び百恵も微笑む。タクシーもいい稼ぎになる。数が少ないのか捕まえるのが大変だ。手を上げて車が寄って来る。捕まえたと喜ぶと、スッと前に出て来て手を上げた人間に横取りされる。停まるタクシーの横にピタットついて、客が金払ってる間にとにかく乗り込んでしまう。お先にどうぞ！などと日本流にやっていたら何時まで経っても乗れやしない。交差点でも我先にと車が突っ込んで来て、身動きつかなくなる。二百元出すと簡単に免許を買えるという。法規を守り、秩序正しく譲り合った方がスムーズにいき、効率的と思うのだが。



日本に発つ朝、時間があるというので展覧中心なる所へ案内される。ソ連が造ったテレジアンイエローのクラシックで立派な建物。上海万博の事務局だという。部長なる人物が案内。古代からの財宝、文化財が展示され博物館のよう。奥へ進むとお土産屋。飾り棚いっぱい。唐三彩等の工芸品や宝玉やらが一山送料込み百万円という。六月に義兄が八十万円で買った。向こうも干場さんですね、と思い出してお土産をくれる。役所なのか土産物屋なのか？この妖しさがたまらないと娘。先生や消防士なんかの公務員は月給千円くらいの薄給だから、賄賂もはびこる。

◎あてにならない数字・・・黄土高原だより (NO. 335) より

高見 邦雄 (緑の地球ネットワーク事務局長)

ややこしい話は、すこし時間をおいてからしか書けないものです。しかも、めんどろをきらって、県名を伏せることにします。ある県の招待所の部屋に入った時、私はすっかりすねていました。かなり以前のことで原因は忘れてしまいました。同行していた大同事務所のメンバーと、当時のカウンターパートの県の青年団の代表が、呼びにきました。「県長があいに来ているから、早くきてほしい」といって。ほっといたんですね。それからすると、すねてる原因は、この県のことだったんでしょう。また、呼びにきたんですけど、ほっといた。そしたら、3度目に呼びに来て、「遠田先生が、相手をしてるけど、困ってます」というのです。そうなる、行かないわけにはいきません。

県長は、遠田さんに県の状況を話していました。「この県は、急速に発展していて、1人あたりの年収は、千百元になった」というようなことです。とうてい信じられない数字でした。部屋に入るなり、「有水分百分之多少？」と、口をはさんだ。正確な中国語じゃないけど、どんだけ水増しがあるのか、と聞いたんです。そこにいた、中国側のメンバーは、瞬間に凍ったそうです。どうなることか、と思って。県長のほうが、腰が引けました。私の顔を見て、ひと呼吸おいて「まあ、そんなところだと思ってくれ。計画経済の頃は、そういう数字も把握できたけど、改革開放で市場経済になってからは、よくわからなくなった。きちんと調査するだけの予算もないし」ということだったんです。

別の県で、森林覆盖率(被覆率)を誰かが質問したら、県長に代わって、林業局長が答えました。これも、驚くような数字でしたから、いくつか追加質問しました。「ヤナギハグミ(沙棘=グミ科の灌木)が、パラパラッと生えているようなところも、森林ですか?」。「そうです」。「ことしの春、小さなマツを植えたところは、森林ですか?」。「国家の規定では、1m以上に育ってから、森林に入れるということですけど、この県では、特例として、それも加えることにしています」。「昨年植えて、森林面積に加えたけど、その後枯れてしまった、というところは、森林面積から、差し引きますか?」。「そういうことはしません」。またまた、別の県の林業局長が報告しました。「国の林業部(現在は局)から、幹部が視察に来て、この県のプロジェクトをみたあと、活着率を質問されたので、90%です」と答えたら、きみ、それは謙虚すぎるよ、謙虚はいいけど、謙虚すぎるのはよくない、その2割増しくらいは、活着しているだろう、といわれました。そういって、自慢するんですね。そしたら、日本からきていた、私たちのワーキングツアーのメンバーが、拍手したんですね。恥ずかしくて仕方がなかった。90%の2割増しは、いったい、いくらになるんですか。その直後、その県の前任の党書記にあう機会があったので、こういうことがあったよ、と話したら、「あいつは、もう.....」といって、白けきっていましたよ。

どうして、こんなことが起こるのでしょうか？その人個人の資質の問題もないとはいえないでしょうけど、本質的には、制度、仕組みの問題でしょう。みんな、お役人なんですけど、成績を上げないことには、いいポストに、つけない。ですから、成果のところは、多少は、話をふくらませたい。まずいところは、できるだけ触れたくない。上のほうが期待する報告も、そういうものです。ところが、前任者がすでに、ふくらませているわけですね。正直に言えば、自分が、落としたことになります。かといって、前任者の報告が、ウソだったとは、まず、いえない。そういうことは、どこの社会でも、似たようなものでしょう。そのような問題にであったとき、あれがウソだったと、あとで騒いでも、余りいいことはないでしょう。やっぱり自分自身を訓練して、正確なところを、きちんと判断する能力をつけるしか、ないのだと思います。

★黄土高原だより：中国山西省大同市の黄土高原の農村での緑化協力活動のなかでの体験を書きつづけています。不定期の発行です。バックナンバーを緑の地球ネットワークのWebページにしています。

◎緑の地球ネットワークが認定NPO法人になりました！

1992年より、地道に中国山西省大同市で黄土高原の緑化活動を続ける、緑の地球ネットワークが、国税庁長官の認定を受け、税制上の優遇を受ける「認定特定非営利活動法人」になりました。最大のメリットは、寄付された方に税の優遇措置があることです。相続・遺贈による財産を寄付した場合、相続税の課税対象になりません。

日本社会は公益部門は政府、民間は営利と二極に分かれ、民間の公益部門は本当に力が足りません。寄付の習慣もなく、一世帯あたりの寄付支出は年間3000円ほど、アメリカの60分の1だそうです。こうした実態には、習慣、伝統、文化といった要素もありますが、制度の違いも大きく影響しています。民間はずっと冷遇されていたのです。

民間の公益活動の活性化と寄付文化の発展を掲げ、認定NPOの制度が2001年10月にスタートしました。1) 広く一般から支持されている、2) 活動や組織運営が適正に行われている、3) 法人に関する多くの情報を公開している、といったことを条件に、国税庁長官の認定によって税制上の優遇措置をとる、というものです。やっとスタート台に立てた、というところですが、実際の条件は非現実的なまでに厳しく、手続きが煩瑣で、申請する団体も少なく、NPO法人2万4千中、全国で34団体しか認定されていません。

「広く一般から支持されている」ことの証として、総収入に対する寄付金の割合が5分の1以上である必要があります。細かい条件がたくさんつき、クリアするのは容易ではありませんが、とにかく寄付金をふやす必要があります。税制上の優遇措置をえられるようになった機会に、いま賛助会員（年会費1口10万円）を大募集しています。相手の困っているところを手助けするのが、隣人です。政冷経熱が言われ、ギクシャクする日中関係ですが、外交は政府だけがするものではありません。内陸の貧しい農村地帯で、緑化から貧困救済まで、草の根のボランティア活動で、中国でも大変高く評価されている、緑の地球ネットワークです。賛助会員に限りません。皆様のご支援をお願いいたします。

★認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク (GEN)

552-0012 大阪市港区市岡1-4-24 住宅情報ビル5FTEL. 06-6576-6181FAX. 06-6576-6182

E-mail gentree@s4.dion.ne.jp URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>

◎武富士万歳！出張こぼれ話

高知出張の朝、いつもより早い？ので生活リズムが狂ったか、高田馬場駅のトイレで並ぶ。先着二名。ブース三つ。より深刻顔の若者が後ろに並ぶ。ようやく入るもロールのペーパーが切れている。カバンに潜ませた武富士に救われる。武富士万歳！メディアとしてティッシュペーパーを無料配布するのは日本だけだ。救われた気分で出ると、まだ先程の若者の浮かぬ顔がある。武富士の用意はあるのだろうか？

何度目かの高知だが、桂浜で坂本竜馬と会うほどの時間はない。播磨屋橋近くの、宮尾登美子の小説の舞台の料亭で、食事くらいはしたい。明治三年開業の得月楼、小説では陽輝楼の、紅葉の綺麗な中庭を望む座敷で、お弁当をいただく。ここで維新の、自由民権の志士たちが、熱き想いをぶつけあったのだ。その昔に思いを馳せる。お刺身にタタキ、煮物に焼き物、天婦羅に茶碗蒸、香の物にお椀、それに栗おこわ。これで二千元！と大感激。ニンニクが効いている鯉の叩きは、営業があるので一切れのみ。舌に染み気分が引き締まる。帰りは空港でジャコ揚げと韃の叩きで酔鯨を鯨飲、鯨機で鯨睡。目覚めると羽田だ。

地場の味に舌鼓を打てるのは出張の楽しみだが、山形の𩺰（アケビ）料理がテレビで紹介されていた。山一番の女と書いてアケビとは。ブドウのように栽培して、果肉ではなく皮を食べるといふ。味噌で炒めた挽き肉を包んでカンピョウで巻き、油で揚げる。茄子の挟み揚げの感じだ。苦い皮をむいたのを細切れにして荳ゴマで炒め、醤油で味付けしたりもする。茄子料理の応用の感じだ。秋田では果肉を食べ、絃をバック等に細工するだけだ。山形にもたまに足を運ぶが、食べたことはない。次回が楽しみだ。

前回、神田の伊勢源の、味醂たっぷりの醤油味の鮫鱈鍋よりも、味噌味の秋田のお袋の味の方が美味しいと、宣したのだが、本場茨城の鮫鱈鍋も味噌味のような。テレビで大洗の漁師が、お袋の鍋と同じように、鮫鱈の肝を味噌で炒め、そのまま身と葱を入れて食べていた。秋田の佐竹の殿様が、水戸から秋田に転封された縁なのだろうか？三鷹の寮で1年先輩の、現代の水戸藩主？橋本茨城県知事を、年明けにでも訪問しようと思っているので、できれば本場の鮫鱈鍋を楽しんでみたい。

◎「日本農業のこれから」・・・第11回能代山本フォーラム21のご案内

今回は、東京大学大学院農学生命科学研究科教授（農業経済学）として活躍されている生源寺眞一さん（45年入寮）に講師をお願いしました。

生源寺先生は昭和26年愛知県生れ、旭丘高校卒、昭和45年三鷹寮入寮、昭和51年農学部農業経済学科卒、同年農林省農事試験場研究員、北海道農業試験場研究員を経て、昭和62年東京大学農学部助教授。平成8年より現職。この間、平成元年ケンブリッジ大学客員研究員。主著に「農地の経済分析」「農業経済学」（共著）「こころ豊かなれ日本農業新論」（共著）「現代農業政策の経済分析」「アンチ急進派の農政改革論」「農政大改革」「新しい米政策と農業・農村ビジョン」等。日本フードシステム学会会長、食料・農業・農村政策審議会委員、国土審議会委員、葉たばこ審議会委員などの要職を歴任。

農薬、BSE、鳥インフルエンザ問題、あるいは米減反や所得保障という、食品についての安全性や食料自給率などの食料安全保障が大きな問題となり、他方、アジアの富裕層向けに、美味しく安全な日本の農産物が、高くても売れるこの頃です。視野を世界に広げれば市場は無限です。それにどうアプローチするか？も含め、日本の農業・農政が進むべき道について、斯界の第一人者である生源寺さんに語ってもらいます。

日 時 2月6日(月曜)午後2時半開場、3時開会、5時より懇親会
場 所 能代キャッスルホテル 平安閣
会 費 講演会無料 懇親会5千円
申込・連絡先 飯坂 誠悦 (Tel/fax 0185-54-8953)

◎日本酒の話し・・・三鷹クラブ第64回定例懇談会のご案内

今回はお正月にちなんで“お酒”をテーマに取り上げました。講師は蓼沼誠さん(財団法人日本醸造協会会長・元大蔵省醸造試験所長・昭和31年入寮)です。

10月のある日、定例会の打合せ等のため、私は北区滝野川の協会本部を訪問しました。何回か電話はしてはしておりましたが、その時が蓼沼さんとは初対面でした。それでもにこやかに応接して下さい、仕事のこと、100年になろうという協会の歴史、そして寮のことなど、時間を忘れて説明していただきました。遂には隠れ家的な店にまでご一緒して、話を続けました。(私は盃に2,3杯程度しか飲めませんが、すすめられた日本酒の味は洗練された肴ともども別でした)。

蓼沼さんは、栃木県出身、宇都宮高校から東大理Ⅱへ、三鷹寮には農学部農芸化学科に進むまで2年間在住しました。最初に入った東寮では、かいこ棚の寝室から眺める馬術部の練習風景と冬の寒さが最も印象に残っているそうです。2年目に明寮に移り、その時同室だった安橋隆雄(農林水産省OB)、西順一郎(元三菱重工、現在は自営)の両氏とは、今も交流を続けているとのこと。安橋さんに電話して蓼沼さんのことを聞きましたところ、「彼は農芸化学専攻にしては数学が好きだった。また学生時代から情に厚く、親切な人で、よく一緒に旅行した。今市の彼の実家に泊めてもらい、はじめて日光を案内してもらった時の事が忘れられない」とのことでした。もっとも蓼沼さんによれば、数学などは大の苦手な旅行は大体安橋さんの計画に従って、ついていっただけだったと、極めて控え目なお答えが返って来ました。

大学卒業後は、直ちに大蔵省(国税庁)醸造試験所に就職し、35年の公務員生活のうち、国税庁において酒などの鑑定関係のポストにあった期間(延10年余り)を除いては、試験所での研究生活に没頭し、平成7年所長を退いた後も醸造協会において、引き続き関係業務に携わっており、まさにこの道一筋で半世紀を過ぎて来られました。今回の会合では、日本酒について、豊富な御経験に基づくお話を頂くと共に、珍しいお酒を試飲する実践プログラムもお願いしております。是非御期待下さい。(平賀俊行記)

日時：平成18年1月31日(火) 18時30分～21時

場所：学士会館本館203号室(千代田区神田錦町3-28 Tel 03-3292-5931)

会費：5000円(会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み)

定員：70名(先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません)

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email:tfn-hoshiha@blue.ocn.ne.jp

★三鷹クラブホームページ復活・再生!・・・<http://www.ne.jp/asahi/mitaka/club/>

12月10日の寮でのイベントの様子も中村英さんが、載せてくれています。本通信の前身の「水族館通信」1号から10号も載っています。

◎三鷹寮自治会復活

12月10日(土曜)の昼に、今回で12回と、恒例になった「三鷹市民と三鷹国際学生宿舎生との集い」に参加しました。三鷹クラブ世話人への教養学部からの案内を、会員へメールで流したので水島太蔵(S34年入寮)、辰紘(S40年入寮)、中村英(S42年入寮)、井上豊(S43年入寮)さんなども参加しました。村上郁也東大大学院総合文化研究科助教授の「錯覚からわかる脳の仕組み」という講演も、最先端の研究を面白く解説してくれて、好評でした。講演の後、寮内を見学、様変わりに皆さん驚いていました。立食のパーティでは市民、教職員、留学生、現役寮生と交流、大いに盛り上がりました。

しばらく休眠していた自治会も宿舍生会として復活、後藤孟君(理I、教養3年、滋賀県膳所高校)が委員長に名乗りを上げ、坂東樹君(文I、岡山白稜高校)が副委員長で補佐し、フロアのラウンジ毎に選ばれる総代を募集するポスターがあちこちに貼られています。どうなることかと心配していたのですが、これで一安心です。正副委員長の頑張りに期待し、OBとしても応援して行きたいと思います。教養の大学院生も留学生のチューター役を兼ねて入寮し、院生会(野田周平幹事長)を作って、留学生の世話を当たっています。こちらとも、連絡を取って行きたいと思います。

正副委員長をつかまえ、さっそく1月17日(火)に、事務所で一緒に新年会をすることにしました。関係の方々の参加をお願いいたします。夕方7時、当事務所集合です。人数が多くなれば近くに会場を移したいと思いますので、10日(月曜)までに出席のご連絡をお願いいたします。当事務所は新年は6日からです。

◎iポッド買う!

11月の中国旅行で、CD ウォークマンをCD20枚ごと、桂林-上海の機内に忘れ、大打撃だったのですが、その代わりに、ミニカナノか、シャッフルか知りませんが、千曲収容の、若者に流行りのiポッドを買いました。海外旅行の時に大容量の記憶媒体としても使えと、動画も見られる大きいのを買おうとしたのですが、量販店の店員が、iポッドには高画素数では取り込めず、一度取り込んだものをテレビに出力しても粗いというので、記憶媒体としてのiポッドは諦めました。

手持ちのCDを事務所のアシスタントにPC経由で入れてもらってますが、70枚ほど持って来たので、千曲のナツメロ全集ができそうです。コピーもできてしまうので、又、レコードやCDのない世界に戻るのでしょうか?小さなiポッドをポケットに忍ばせるだけで、旅先でひばりとお千代ちゃん、お登紀さんが僕のために歌ってくれます。地球もちっちゃん星だけど、幸せ一杯、夢一杯、だってあなたに恋しているんだもん!

◎最後に

05年内にスキーいけるかな?と考えながらパソコン打ってます。早くも雪はたっぷりありそうです。ホームページの通信、47号まで入れていただきました。今年の版お年玉は暦年に因み、封筒の表の番号が末尾06番の方とさせていただきます。何が当たっているかは景品が届いてからのお楽しみです。新年も宜しく願いいたします。再見!